



『資産形成への関心度が急上昇！一方で・・・』

2020年は新型コロナウイルス感染症の流行により、オンライン化が進んだり、新しい生活様式が定着したりと大きな変化の一年でした。

緊急事態宣言が発令され、外出自粛の中で、「資産形成」に関心を持たれた方が多くいらっしゃいます。外出ができず不便ではありましたが、その代わりにじっくりと自分の将来について考えるという時間を持てた方も多かったのではないのでしょうか？

その表れとして、つみたてNISA口座の開設数やiDeCoの新規加入者が一気に増えました。

昨年、記憶に新しい「老後2,000万円問題」という言葉から、将来への不安を感じる方が多くなっていたことも重なったようです。

「貯蓄から資産形成へ」とスローガンが打ち出されている中で、将来に向けた資産形成に関心を持ち、スタートされる方が多いのはとても素晴らしいことです！



低金利の現在、将来に向けて資産を殖やすことは必須とも言える時代となりました。

では、iDeCoで老後資金を準備されている方は、どんな商品で運用をしているのか。

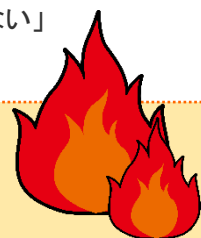
実は、その内訳の50%以上を元本保証である預貯金・保険に組入れられています。

「資産運用」は主に株式・投資信託・債券での運用を言いますので、「資産運用をしているから将来は安心!!」と思っても、実際はほとんど殖えていないということになるかもしれません。

せっかく資産運用をできる仕組みを取り入れているのであれば、将来に向けてしっかり殖やしていきたいですね。将来のライフプランが実現できる方法で行っていきましょう。

「始めたいけれども、情報が多すぎて良くわからない」、「気にはなっているが運用が怖くて始められない」「スタートしたものの、放置状態」という方は担当FPまでご相談ください(^^)／

2021年、30%以上も火災保険料値上がりの場合も！？



2021年1月の火災保険料の改定についてはメディアでも取り上げられていますが、その改定率は都道府県や築年数、建物の構造によって大きく違います。平均して6～8%引き上げられるとみられていますが、築10年以上の場合、火災保険料が30%以上値上がりする可能性もあります！ご自身がお住まいの建物は築何年でしょうか？この機会に是非確認してみてください！来年1月の値上げでも、都道府県単位で一律の保険料とすることをやめ、ハザードマップ(災害危険予測地図)を活用してその土地のリスクに応じた保険料を適用するという保険会社も現れました。ご加入時のままになっていて補償内容が分からないということはありませんか？ハザードマップを用いてリスクに応じた補償を案内させていただきますので、ぜひ今年中に見直してみましょう！

〔発行〕 株式会社F・P・S

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-7-20 新トヤマビル6階
(大阪メトロ 堺筋本町駅⑫番出口 徒歩1分)

代表電話:06-6262-0501 フリーコール 0800-111-5667

<https://fpsjp.com/>



HPIはこちらから